

学 界 報 告

[学 会 名]

7th ACP-International Conference

[発 表 題 目]

Effects of an Advance Care Planning Educational Program intervention in an Acute Hospital: A Qualitative data analysis

[大 会 期 間]

2019年3月13日(水)～2019年3月16日(土)

[開 催 場 所]

オランダ (ロッテルダム) De Doelen& Mrriotto

※記事

我が国は、世界でも類を見ない超高齢社会を迎えている。2025年には75歳以上の後期高齢者が増大し、まさに「多死時代」の到来が迫っている。このような社会背景を見据えて、常に一步先の未来を想像しつつ、人々が病を抱えながらもその人にとっての「生」を最期まで支えるための支援が医療従事者である我々の使命である。特に近年世界的にその必要性が示唆されている Advance Care Planning (ACP) を丁寧に進めていくことがその使命を達成するために重要であるという意識が日本でも高まってきているが、医療・介護専門職者それぞれの役割や関わり方、またその介入のタイミングといった具体的な実践方法に関しては、未だ不透明な状況で合意形成が出来ていない状況にある。ACP 先進諸外国においては ACP 実践の方法論や成果検証が進められているものの、日本では未だ様々な研究者や専門職者がその方法論について試行錯誤しながら検討して

いる状況で、これからの課題となっている。

2年に1度開催される ACP の国際学会である本学会も今回で第7回目の開催となった。25か国から300名を超える ACP に関する研究者や実践者が一同に会する貴重な機会である。私自身も今回で4回目の参加となり、世界中の ACP 実践者・研究者とも交流が生まれ、ワークショップやカンファレンスの時間以外にも様々なディスカッションや情報交換の時間を持つことが出来た。学会では、自身のこれまでの研究成果を発表し、様々な質問を受けることにより新たな知見や示唆を得ることが出来た。アジア圏における ACP 教育に関する介入研究は未だ多くは無いため、興味関心を高く得ることが出来たと感じている。カンファレンス開始前日に行われた ACP 実践に関するワークショップにも参加することが出来た。本ワークショップでは、Respecting Choices というアメリカで開発された ACP 実践者のトレーニングツールを用いて、実際に ACP を実践方法について講義を受けながら、時折演習 (ロールプレイ) を交えて実践しつつ、ACP 実践の実際の方法について学びを深めることができた。

近代的なオランダの公的病院の中がワークショップの会場となっていたため、病院見学の機会を得た。アメニティが充実しており、室内で散歩や気分転換が可能なように屋内公園が設置されているなど、患者目線で様々な環境が整えられており、機能的なアメニティが揃った病院であった。

世界中の ACP 研究者との交流は勿論、日本における ACP 研究者とも情報共有することができ、今後日本における ACP 実践の

普及啓発について議論を交わす事もできた。ACP 先進国である欧米諸国による実践方法や理念を踏まえつつ、日本の文化に即した ACP 実践の在り方について、早急に今後検討を進めていく必要があることを共通認識として確認しあった。今回の学会発表とワークショップ参加によって得られた知見を基に、今後共同研究などの方向を模索しつつ患者・家族にとって望ましい End of Life の実現に向けた ACP 実践について検討を進めていきたい。

(濱吉 美穂)